

ホームにサンタがやってきた 踊りやプレゼントに大喜び

ひなの家押野通信第13号

クリスマス会が12月18日、ひなの家押野であり、スタッフの歌と踊り、プレゼントなどで利用者は大喜びでした。



サンタさんからのプレゼントに喜ぶ利用者

利用者代表3人がキャンドルに灯をともした後、スタッフが前列に並び、ピンクレディーの「UFO」を歌って踊りました。数日前から練習を重ねてきただけにみんなの息もぴったり。「アホの坂田」の踊りも飛び出し、盛り上がりました。アンコールでは、「ふゆき」をみんなで手話を演じながら歌いました。



踊りを披露するスタッフ

登壇。利用者一人一人にプレゼントを渡しました。最後に利用者代表として小野治郎さんが「来年も元気にクリスマスを迎えましょう」とあいさつしました。この後、利用者はスタッフの手作りケーキをほお張り、楽しいひとときを過ぎました。



ひなの家 押野

野々市市押野 1-31
電話076(287)5810



クリスマスケーキ

あいさつする小野さん



四季を撮る

冬に明るさ振りまく

季節は秋から冬へ。寒さが増すにつれて、真っ赤に色づいたポインセチアがホームのフロアに明るさを振りまいています。クリスマスの花としても親しまれています。冬に少しでも彩をもたせたいと、スタッフが持ち寄りました。外は雪がちらついています、暖かいホームの中で、元気に育っています。



力作の手芸品を飾る

福岡千鳥さん作品展

利用者の福岡千鳥さんの手芸作品がホームで展示されています。福岡さんは15年ほど前から地元の町内で開いていた手芸教室に通い、こつこつと制作してきました。作品は大好きな猫やワザギ赤い寒をつけたホオズキなど10点近くあります。



写真は、手芸作品と福岡さん

あけましておめでとうございます



令和3年、丑年は私の年。まだまだ元氣ですー。変わり筆で「おめでとう」と書いた女性利用者は人生?回目の年女。ますますカクシャクとしています。

てまりグループのてまり学術大会が12月6日、ZOOM形式で開かれ、「『家に帰りたい』を叶える」と題して梶るり主任がひなの家押野の成功事例を発表しました。要旨は次の通りです。



梶るりさん

「家に帰りたい」を叶える成功事例 てまり学術大会で梶さん発表

【要旨】いったん在宅生活をあきらめた一人暮らしの老夫婦が小規模多機能型居宅介護「ひなの家押野」を利用して、在宅生活を再開した3つのケースを発表。

ある事例では、退院後、宿泊を連続し利用。少しずつ自宅で過ごす時間を増やすことで、入院中には想像できなかった家での生活を実現できた。別の事例では、週に複数回の訪問、通いや泊りを利

用しながら、支援してきた。小規模多機能型居宅介護は訪問や通い、泊まりを組み合わせ、柔軟にサービスを変更できることやトータル的に支援できるので、本人や家族の不安を軽減でき、在宅生活に自信が持てるよう支援できた。



ゆず湯を楽しむ
冬至の12月21日、お風呂にユズが浮かべられ、利用者は香り豊かなユズ湯に写真を楽しみました。

スタッフ紹介 「元気いっぱい」⑬

介護福祉士 岩崎 雅人さん



笑顔が似合う岩崎さん

利用者優先の意識をもって
中学生の時、ボランティアで老人ホームを訪れ、太鼓打ちのレクリエーションを披露し、喜ばれた。5年前に家族が若年性認知症となり、入院した介護福祉士の資格

を取得。10月にひなの家押野に入った。初めて経験する小規模多機能施設は利用者に対応したきめの細かいサービスが要求される。「スタッフは利用者優先の意識がしっかりしていて、新鮮味を感じる」。

20代半ば。「これでいいのか」と迷うこともあるが「今はがむしゃらに進むだけ」と意欲を見せる。中学の時、剣道2段を取得したスポーツマン。



私たちのクラブに寄贈
地域の学童クラブ「たちのクラブ」に、12月18日、利用者やスタッフが作った紙のコマ30個を寄贈しました。写真。



認知症について学ぶ
スタッフ勉強会が12月1日、ホームであり、スタッフらが認知症および周辺疾患の症状や治療薬の用法などを学びました。写真。

◎編集後記
あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひします。
コロナ禍はいつまで続くのでしょうか。世界では、ワクチン実用化に期待が膨らみます。ひなの家押野では、笑顔でいきましよう。コロナの一番の特効薬は、ひよっとして笑顔かもしれません。
(浦上)